

20051

当院でのST上昇型急性心筋梗塞におけるDoor to Balloon Timeの現状と課題

¹同愛記念病院、²同愛記念病院、³同愛記念病院、⁴同愛記念病院

渡邊 将志¹、中島 美恵子²、郡 浩³、高橋 保裕⁴、大橋 雄紀¹、加藤 ミオ¹、岩下 龍翔¹、宇田川 慧介¹

【目的】ST上昇型急性心筋梗塞(STEMI)ではいかに早期にTIMI 3の再灌流がえられるかによって予後が決まる。Door to Balloon Time (DTBT)はガイドラインでは90分以内とされている。DTBTの短縮を目指し現状と課題について検討した

【方法】2011年9月から2012年7月まで当院に緊急搬送されたSTEMI 43症例について救急外来到着から血管造影室入室までの時間をA、血管造影室入室からTIMI3を得られるまでをBとし、それぞれを日勤帯時間内と時間外に分け、遅延症例(A・Bどちらか>50min、A+B>90min)の内訳などを調査した。

【結果】表1参照

遅延症例は10例(23.3%)であり、伝達ミス・情報共有不足3件、冠動脈起始異常3件、補助循環の開始2件、穿刺困難1件、静脈フィルター留置1件であった

【結論】当院でのDTBTは平均66.8分であったが、遅延症例を23%に認めた。今後、急変時の迅速な対応、連絡システムの正確性を高める、職種間の相互業務支援などによりさらなるDTBTの短縮が期待される。

表1

分	全体	時間内	時間外
A	25.3±17.2	26.0±20.9	24.5±10.9
B	41.5±16.1	39.5±11.9	43.9±19.8
DTBT	66.8±27.1	65.5±27.2	72.0±26.8

※救急外来よりカテ室直接搬送の場合、DTBTは42±8.0

表1

分	全体	時間内	時間外
A	25.3 ± 17.2	26.0 ± 20.9	24.5 ± 10.9
B	41.5 ± 16.1	39.5 ± 11.9	43.9 ± 19.8
DTBT	66.8 ± 27.1	65.5 ± 27.2	72.0 ± 26.8
※救急外来よりカテ室直接搬送の場合、DTBTは42 ± 8.0			